

## 2つのプログラム

---

ここでいうプログラムとは、上記の4コースとは別に、将来どのような職業に就きたいかという観点から学生自身が選択するカリキュラム群で、両プログラムは卒業に必要な科目に相違はあるものの、両者のあいだに優劣や難易の別はなく、演習などの授業も両プログラム合同でおこなわれ、いずれも卒業論文が課せられる。

### 【Standard Career Program(S-プログラム)】

特定の時代や地域にとらわれず、歴史学を幅広く学んで人生に活かし、将来は公務員や一般企業への就職を考えている学生のためのカリキュラム群で、歴史学の専門科目のほかに、社会人の素養となる語学や社会科学系科目（法学、経済学など）を数多く履修するプログラムとなっている。このプログラムでも、教員免許・学芸員資格などの取得は可能である。

### 【Professional Career Program(P-プログラム)】

大学院への進学、もしくは教職・学芸員など専門職を目指している学生のためのカリキュラム群で、幅広くしっかりと歴史の専門知識を修得できるよう、専門科目の必修科目と選択必修科目から52単位以上を履修することになっている。このプログラムでは、教員免許または学芸員資格の取得を学生に推奨しており、それに適したカリキュラムが組まれている。

## コースとプログラムの選択

---

### 【コースの選択】

コースの選択は、3年次の前期履修登録時にK-SMAPYにて行う。それ以降に変更の希望があった場合は、教務委員及び指導教員との面接によって決定する。コースの最終的な決定は4年次の前期履修登録時となる。なお、卒業論文の作成上、3年次と4年次のコースは同一が望ましい。

### 【プログラムの選択】

プログラムの選択は、2年次の前期履修登録時に行い、原則として3年次の前期履修登録時のみ変更可能である。なお、プログラムの選択及び変更手続きは、3年次前期履修登録時まではK-SMAPY、それ以降に変更を希望する場合は、教務委員及び指導教員との面接によって決定する。

## カリキュラムの構成と履修方法

---

### 【必修科目】 → 28単位(卒業論文8単位を含む)

史学科共通の必修科目（必ず履修しなければならない科目）群で、「史学入門Ⅰ・Ⅱ」「史学導入演習」「史学基礎演習A・B・C」「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」「史学応用演習」「演習・卒業論文」がこれに該当する。「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」と「史学応用演習」は、卒業論文の作成上、同一教員による指導が望ましい。また「史学基礎演習A・B・C」「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」「史学応用演習」は、シラバスの「講義題目・テーマ」で示される内容が異なる場合には、教員の許可を得て複数受講することができる。

### 【選択必修科目】 → S-プログラム16単位、P-プログラム24単位以上

史学科の学修にとって基本となる選択必修科目群である。「概論」科目から自分のコースの2科目4単位以上を含め4科目8単位以上、「コース科目」からS-プログラムは各コースから2単位ずつ修得し合計8単位、P-プログラムは自身の選択しているコースから12単位を含み16単位以上を修得しなければならない。

### 【選択科目】 → S-プログラム20単位以上、P-プログラム12単位以上

自由に選択できる選択科目群で、次の2つのカテゴリーからなる。Ⅰ類は史学科の専門科目、Ⅱ類は史学科以外の専門科目である。ただし、S-プログラムはⅡ類（史学以外の科目）から12単位以上を修得しなければならない。

## 定員制の演習(ゼミ)

---

3年次の史学展開演習Ⅰ・Ⅱ、4年次の史学応用演習は、演習発表や卒業論文中間発表など学生自身による研究発表と討論を中心に進められ、履修者数が極端に多くなると授業が成り立たないため、各ゼミ20人程度の定員制とする。史学展開演習Ⅰ・Ⅱは2年次の後期に開くガイダンスで事前登録を行う。

## 考古学調査士資格について

---

考古調査士資格とは、遺跡発掘調査にあたる調査士の資格で、全国の大学・研究機関共通の統一的な資格審査機構である「考古調査士資格認定機構」が授与する。本学は同機構に加盟しており、所定の科目を履修し単位修得した学生は、考古調査士資格(2級)を申請・取得できる。